

玉野市教育大綱

【基本理念】 たまので育つ、TAMANO が育つ

子育てのしやすい環境整備や様々な学びの場の充実など「人が育つ」まちづくりを進めるとともに、玉野に愛着を持つ人を増やし、まちの活性化に繋げることで、みんなでまちを育ていきます。

「まちが人を育て、人がまちを育てる。」そうした好循環を生み出し、誰もが見てみたい、行ってみたい、いつまでも住み続けたいと感じられる、将来にわたって魅力的なまちであり続けることを目指すため、次の施策を実施することにより、人の「育ち」を支えます。

【基本方針】 2 心豊かな人生がおくれる文化が薫るまち

②学校教育の充実と地域人材の育成

グローバル化、デジタル化に対応した特色のある教育や、確かな学力豊かな心、健やかな体を育む学校教育を推進することで、自分の将来に夢と責任を持ち、将来にわたって自己実現を目指すために必要な力を育みます。

また、多彩な文化・芸術、スポーツが身近にあり、気軽に楽しみ、生涯にわたり充実した学習や活躍の機会が提供されることで、喜びや感動に満ちあふれた豊かな人生をおくることができまち実現します。

- ①教育環境の充実
- ②学校教育の充実と地域人材の育成
- ③生涯学習活動の推進
- ④芸術・文化活動の推進
- ⑤スポーツ活動の推進

②学校教育の充実と地域人材の育成

郷土への誇りや愛着を持ち、夢や目標をもって 社会を生き抜く子どもを育みます

中学校区一貫教育の系統的な指導と質の高い教育により、子どもたちの確かな学力の向上、夢を育むキャリア教育の充実を図ります。

また、個に応じたきめ細やかな指導や支援のための組織体制の構築と整備を推進し、社会で生き抜くこれからの時代に求められる子どもの資質・能力を育み、地域の未来を担う人材を育成します。

玉野が目指す学校教育

豊かな心と確かな学力を身につけ、自分の夢に向かって歩む子どもの育成

たくましく！ まなんで のびるたまのっ子

◆中学校区一貫教育の推進による教育活動の充実

・学力向上、キャリア教育を柱に、確かな学力の定着・規範意識の醸成・適切な社会性の育成のための系統的・計画的・継続的な教育を推進

◆特別支援教育・生徒指導支援の充実

・インクルーシブ教育システムの理念をベースに個に応じた支援の充実や、生徒指導体制の充実、学校・家庭・関係機関等との連携強化による教育支援体制の推進

◆地域とともにある学校の実現

・学校運営協議会設置によるコミュニティ・スクール組織と地域学校共同本部事業の一体的充実

◇「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

<社会背景>

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」
- 社会全体のデジタル化・オンライン化、DX加速の必要性



◆全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

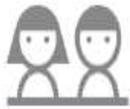
<子供たちに育むべき資質・能力>

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について

「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



個別最適な学び
協働的な学び

一体的に充実



主体的・対話的で
深い学び

授業外の学習改善

授業改善

子供の資質・能力の育成

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

子供が自己調整しながら学習を進めていく

指導の個別化

- ✓子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
- ✓教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う
→ 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める



学習の個性化

- ✓子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
- ✓教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う
→ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる



協働的な学び

- ✓子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
- ✓子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する
→ 異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す



新しい時代に必要となる

【学習指導要領より抜粋】

育成すべき資質・能力の3つの柱

「何ができるようになるのか」(資質・能力の三つの柱)

「何を学ぶのか」 「どのように学ぶのか」

◆新しい時代を生き抜く力の育成

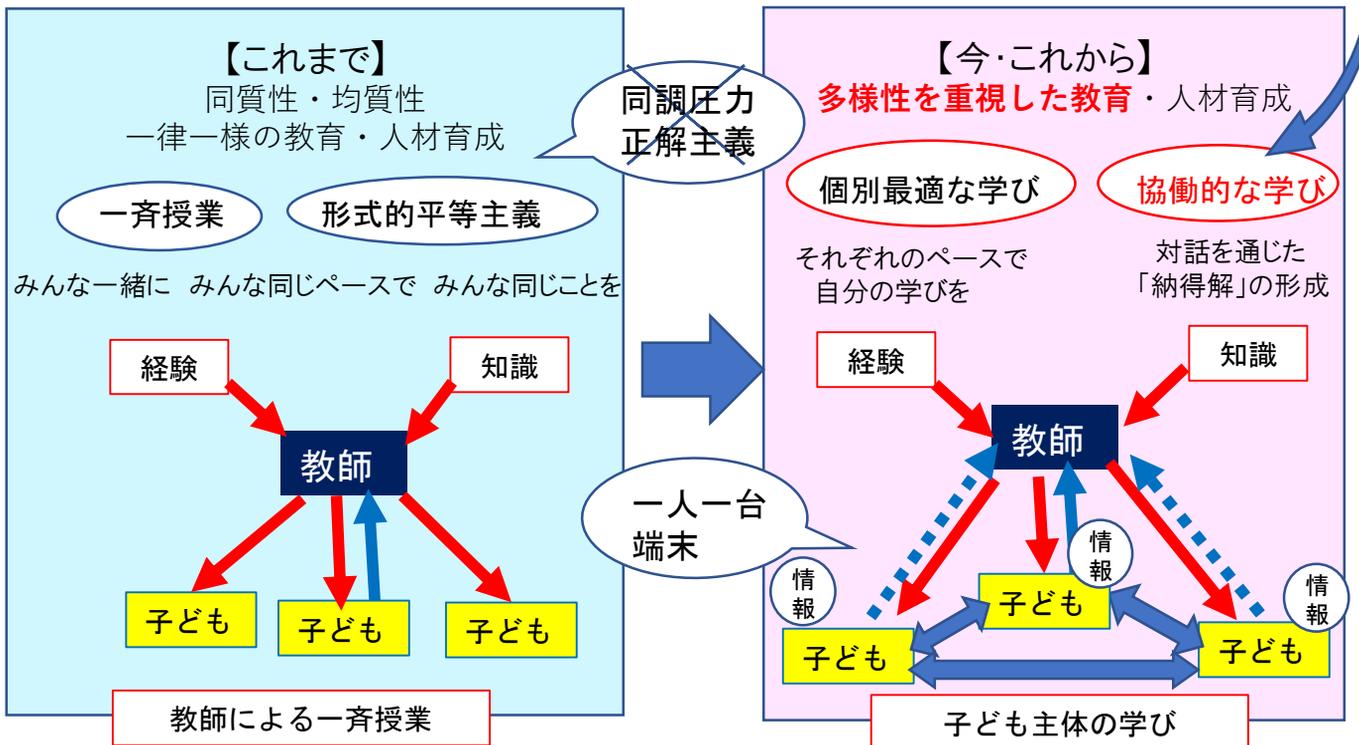
- ・学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。
- ・これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。
- ・そして、明るい未来を、共に創っていきたい。



<育成すべき資質・能力の3つの柱>
 知識及び技能
 思考力・判断力・表現力
 学びに向かう力・人間性等

個別最適な学び		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
一人ひとりの 特性・学習進度・学習到達度 等に応じ、 重点的な指導や指導方法・教材等の工夫 を行う	一人ひとりの 興味・関心、キャリア形成の方向性 等に応じ、一人ひとりに応じた 学習活動や課題に取り組む機会の提供 を行う	一人ひとりの 良い点や可能性 を生かし、子ども同士や地域の方々等、 多様な他者と協働 する

「主体的・対話的で深い学び」



【子どもの学びについて本市の現状と課題】

- 小学校14校中、12校は単学級（そのうち1校は完全複式学級）
 12校（11校6学級・1校3学級）計69学級のうち 1学級の児童数は、
 10人未満（9学級）10～19人（39学級）20～29人（9学級）30～35人（6学級）

・多様性を重視した教育・協働的な学びを通し、多様な他者と関わる中で、**新しい時代を生き抜くために必要な、思考力・判断力・表現力・人間性等の資質能力を育成する環境**として、十分な環境とは言えない。

・48学級（単学級の7割）の児童が、小学校6年間を19人以下（そのうち9学級の児童は9人以下）という限定された他者との関わりとなり、**多様な考えに触れる機会等子どもの学びの環境**としては十分ではないと考える。

※オンラインにより他校とのつながり等多様な他者との関わりは可能ではあるが、授業時間年間850～1015時間のうちの数時間であり、6年間で考えるとわずかな時数であり**6年間の日々の積み重ねが重要**である。また、思考力・判断力・表現力等非認知能力は、数値では測れず可視化が難しいため、課題として認識づらい面も難点である。

本市の学校教育のさらなる充実に向けて

【学校運営等について本市の現状と課題】

○学校教職員数の配当基準と本市の現状(小学校)

	1 学年 複数学級	1 学年単級	複式学級
学級数 (1学年)	2 1 学級 (3～4 学級)	1 3 学級 (2～3 学級)	6 学級
	庄内	田井	築港・宇野・玉・ 玉原・日比・ 二日比・山田小・ 八浜・大崎 鉾立・胸上
教職員 配当数	2 5 名 校長、教頭 教員 2 3 名 → 担任 + 2 名	1 6 名 校長、教頭 教員 1 5 名 →担任 + 1 名	8 名 校長、教頭 教員 6 名 →担任のみ
状況	・担任以外に教員を配置することで、 担任不在の場合の対応可能となる。 ・別室対応等可能となる。 ・教科担任制の導入も対応可能となる。	・担任不在の場合、 対応できる教員 がないため、 教頭対応となる。	・教頭を含めた 担任のみなので、 担任不在の場合 は対応が困難。
校務分掌 (大きな 分掌20 程度)	1人あたり 1 程度	1 人あたり 1～2 程度	1 人あたり 3 程度
その他			・教頭担任である ため、教頭業 務が厳しい。



- ・単学級以下の場合、教職員の配置は、管理職を除くと**担任のみの配置**となり、人力的に余裕がないため、**誰か一人でも、出張や休み等で不在になると、教頭対応となり、学校運営上厳しい。**
- ・現在、**特性のある児童生徒や、支援を要する児童生徒が増加**しており、特別支援教育・生徒指導支援の充実・落ち着いた学習環境等の面から、**担任以外の教職員が必要**となる。**個に応じた支援の充実や支援体制を推進**していくための教職員配置を考えると、複数学級が望ましい。
- ・担任が各学年1名であると、同学年で教科指導や学級経営等他の教員に相談することができない。**教員の資質向上や教員負担**等の面からも複数学級が望ましい。
- ・教職員数が少ないと、**校務分掌等一人当たりの担当業務**が多くなり、教職員の負担も大きい。

※配当基準による教職員以外に、県からの加配や市費による教職員配置も考えられるが、**県の加配については、加配がつかどうか未定**であり、さらに単学級等小規模校への配当は厳しい状況である。市費による配置については、**予算確保が困難な状況**であり、さらに、教職員不足により、**人員確保も難しく、教職員の資質低下**が懸念される。

本市の学校教育のさらなる充実に向けて

【複式学級についての現状と課題】

○複式学級 後閑小学校の現状(小学校)

学年	通常学級						特別支援学級		計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	6年	
児童数	1	2	2	1	4	3	1	1	15
学級 児童数	3		3		7		2		
計	13						2		



○新しい時代に必要となる資質能力の育成の困難さ

- ・多様な他者との協働が難しい環境において、協働的な学びの実現が困難である。
- ・多様な考えに触れたり、他者と関わりふれ合いながらの様々な経験や体験等の機会が少ないため、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験が積みにくく、思考力・判断力・表現力・社会性・協調性・コミュニケーション能力等の非認知能力の育成における困難さがある。

<複式学級について>

- 一人の教員が複数学年を指導することになる。

(例)国・算など積み上げ教科の場合

- ・1時間の授業の中で1年生と2年生と別々の内容を同時に授業を行うこととなる。
⇒教員の高い授業力が求められる。教員は2倍の教材研究・授業準備が必要
⇒1年生の説明や指導をしている時、2年生は自学となる。

(例)理・社など学習内容の入替えが可能な教科の場合(3、4年の複式学級の場合)

- ・教育課程を入れ替え、2年計画で、1年目 第3学年の内容、2年目第4学年の内容を学習
学年によっては、第3学年の時に先に第4学年の内容を学習することとなる。
⇒転出入があった場合、教育課程上対応が難しい状況になることもある。

※子どもの学びの質についての難しさがある。

<後閑小 現在の対応>

- 国・算においては、市費で非常勤講師を配置し、単式での授業を行っている。
⇒学年によっては、教員と児童と1対1の授業であり、現在、学校教育に求められている協働的な学びができていない。
⇒教員不足の中人員確保、市の財政難での予算確保等厳しい状況であり、今後引き続き非常勤講師配置はどうなるかわからない。さらに、今後、複式学級の学校が増えた場合は、この対応は難しい。